

# おなかね 小合

発行者 小合地域コミュニティ協議会 (コミュニティセンター内) ☎0250-25-2299 発行人/阿部 繁 編集/総務部	地域の人口動態
	令和2年6月末現在
	世帯数 1,257戸
	男 1,786人
	女 1,878人
	人口 3,664人

おはなしの「玉手箱」の皆さんの「七夕飾り」(ロビー)



## 目次

- ・小合中学校 新任 中野校長・・・ 1P
- ・常任運営委員会開催・・・ 2P
- ・「小合を楽しむ…」の編集スタート 3P
- ・地域の要望提出について・・・ 3P
- ・新情報発信事業の取り組み・・・ 4P

## 「校長の笑顔は学校の自信」



新潟市立小合中学校

校長

中野 民生

先輩からいただいた言葉です。

新任で小合中学校に勤務することになりました。私自身、秋葉区に住んで二十七年目になりますが、初めて秋葉区の学校に勤務します。どうぞよろしくお願いいたします。

を大切に考えてくれる姿には頭が下がります。お陰様で安心して仕事できることに感謝しています。本当にありがとうございます。

四月当初、小合地域コミュニティ協議会の阿部繁会長をはじめ、幾人かの地域の方々と直接お話しする機会がありました。その時には、七十余年続いてきた小合中学校を取り巻く地域の歴史、地域の人たちのつながりや温かさを感じることができました。

また、新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」の取組において、長年地域教育コーディネーターとして尽力いただいている井浦博男さん、大竹悦子さんの、学校

私がこれまでに勤務してきた学校では、学校と地域との協働による素晴らしい実践を見てくることができました。しかし、ごく一部だと思いますが、地域のコミュニティが学校の活動に積極的にかかわろうとしても、学校側が拒否反応を起こしてしまったり、学校の方が行うべき活動(または、地域との協力体制で行うべき活動)を地域に丸投げしてしまったりしていて、事業として停滞している...といった事例を耳にすることもありました。地域をよく知らない(知ろうとしない)まま、良い教育ができるでしょうか。学校は、子どもは地域に

あるということを理解していかねばならないと、ずっと思ってきました。

繰り返しになりますが、小合地域は子どもを大事にし、学校を地域総出で盛り上げようとする心、気概があると感じています。ありがたい限りです。

阿部会長は、本広報誌に「地域力とコロナ禍」として六月に寄稿されました。その中に、『地域力は地域社会の体力です。体力があれば免疫力もつきます。』と述べられていました。これを受けて、学校も地域とともに地域力の向上に努めていかなければならないと強く感じました。

「子どもの笑顔は地域の自信」「地域の笑顔は子どもの自信」につながることを信じています。

### 「コロナ禍でも地域課題はすすめる」

常任運営委員会開催 6月13日(土)「コミセン大ホール」

今回は、委員全員の他、新任の中野民生小合中学校校長と国道460号小合バイパス開通促進協議会の近藤陽一事務局長両氏も参加しました。

阿部会長の挨拶は、「子供にも住んでほしい」から「住みたい地域づくり」に向けて①持続可能な組織運営に心がける。

②行事は、「実行委員会」方式の編成を追求する。

③地域社会の体力「地域力・見守り力」の向上をはかる

④地域課題の実現に取り組む。などを受けて議事に入りました。

#### 1. コミ協事業の現状報告と今後について

①令和2年度事業活動計画について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「読み聞かせ教室」「ソフトバレーボール大会」「お役立ち講座」「コミぶら散歩」「小合子どもまつり」を中止しました。(5月13日付け回覧)

まだまだ多くの行事が計画されており、感染防止に努め、何ができるか検討していきます。

②秋葉区地区懇談会(7月7日開催)につきましては、出席の人数が制限されているため役員会で対応します。(内容については後日報告します)

③国道460号小合バイパス開通促進協議会の活動及び予算については小合地域コミュニティ協議会に移管し早期実現を目指します。

#### 2. 学校部より

代表の小合中学校中野民生校長からは、2020学校案内に基づきお話をいただき、新型コロナウイルスの感染防止のため体育祭などの行事の現状と今後の進め方などについてもお話がありました。

#### 3. 「地域見守り部」の発足と構成について

2020年度「地域見守り部」の役員はコミ協役員と、

各自治会町内会の12のサロンの代表者、また今年度から「おはなしの玉手箱」の代表者(オプザーバー)で構成します。

#### 4. 小合の住宅地図に「屋号名」を加えて「地域力・見守り力」向上の取組みのお願い

この調査の目的は、今後地域の少子高齢化が進む(今後20年で約千人減少)近い将来には、「自助・共助・公助」の支え合いは当然であるが、いざという時、隣近所の「自助・共助」が先行します。地域内の人間関係を「密」にしておくための事業です。完成した「屋号入り住宅地図」は、自治会・町内会で保管し活用する事とします。(全戸チラシ兼「屋号名」調査表参照)

#### 5. 住みよい地域づくりの為、地域課題の解決の取り組みとして要望書2件を市に提出しました。

①小戸上組地内の道路及び歩道の拡幅 ②小合地区道路車道外側線標示

【要望書 当紙3面参照】

### 地域の見守りは「地域のお茶の間サロン」で

サロン代表者会議(地域見守り部) 開催

6月17日(水) 「コミセン大ホール」

開会にあたり会長からは、「地域のお茶の間サロン」の活動が地域社会の「安心・安全」を目指す上で重要な取り組みであること、そしてこの間の経過と今後の進め方などについて挨拶がありました。

来賓として、秋葉区社会福祉協議会の坂井事務局長補佐他2名が参加し、白井主査から協議会のガイドブックに基づき説明をいただきました。

議事は、次の通りです。

#### 1. 令和1年度 事業及び収支決算書について

#### 2. 令和2年度事業及び収支予算書について

①コミ協の地域見守り部事業は

(ア)健康についての研修会 (イ)世代間交流

を予定しています。尚、実施については、新型コロナウイルスの終息状況により検討

します。

②各サロンと今年度新たに参加する「おはなしの玉手箱」からの活動報告について (ア)サロン活動については自粛をしていたが、早いところは6月下旬から、7月からは各サロンが活動を始める。

(イ)助成金の使い方について (ウ)講師謝礼金の運用について などでした。

ギター演奏とロコモ予防体操についてはコミ協(小合地区社協)が日程を調整します。



『小合を楽しむ・・・』(仮称)の編集スタート  
小合地域の「歴史・文化発掘事業」

小合地域の「歴史・文化発掘事業」がスタートした。本事業の特徴は総会で表決された「持続可能な組織づくり」の基本である、実行委員会方式で実践することである。構成はコミ協役員・ちあきの会・各自治会・町内会よりの代表とする。初回の実行委員会では次のような意見が出されて基本構想を固めた。

冊子の構成は「小合前史」で起こし、産業(商工業含む)教育・拡がり、集落の成り立ちや人物・技術・文化芸術など出来事を年表ベースに組立てることとする。内容の討議に入ると分野は拡がり信濃川の流れや秋葉丘陵に關係する「地質構造」や集落の小路名とその由来(屋号より頻度は少ないが時々会話にでる)。いずれも集落の成り立ちや花卉園芸や稲作には密接な關係のある項目である。

「チューリップ商業生産百周年」に見られるように小合は日本の花卉園芸の発祥地である。先人の声や在野の研究者の声も聴きたい。集落を治めてきた14自治会・町内会や、先人から祈願が続く神社仏閣の由来や歴史にも深遠な思いがある。地域外から来る人を「這りもん」と呼ぶ(佐渡市では旅の者という)。歓迎と少しの警戒感を含んで呼ぶ。

この一冊で小合がわかる。読んで楽しい。ガイドにもなり、新たに小合

に来た人にも地域になじめる内容にしたい。

新型コロナウイルスにより生活様式は一変したが地縁・血縁は現存する。地元にとつては珍しくないがよそから見れば面白いものはある。それを掘り起こせば地域の宝にもなる「這りもん」にも役に立ったり住民にも再発見されたりする。

コロナ禍により、30年前のバブルがはじけたとき以上に私たちの生活は激変した。欧米ではグリーン・リカバリー(回復・再生)の掛け声でこれからの生活を組み立てるらしいが、日本であれば「清貧」な(中野孝次清貧の思想 文芸春秋一九九六)文化と暮らしへの切り替えの機会であろう。欲張りな冊子になるがまとめてみたい。

【主な参考資料】

- ・小合地区安心・安全マップ
  - ・花のふるさと小合お宝マップ
  - ・小合の成り立ち
  - ・大きなお世話 小合地域における「よい子」の作り方マニュアル…新藤幸生
  - ・五線譜に残した吉田千秋の軌跡(DVD)
  - ・新津市史…新津市史編纂委員会
  - ・新津郷土誌8号…新津郷土誌料研究会
  - ・みんなの潟学…新潟市潟環境研究所
  - ・吉田千秋と植物…倉重裕二
- (注) 参考文献、7月現在

交通安全に関する地域要望書提出

今年度の小合地域コミュニティ協議会の事業運営の基本として「自治会・町内会と一体になり地域の安心安全のまちづくりに取り組みます」があります。

その一環として、この度、次の2件の要望書をコミ協会長・該当自治会町内会長・学校長連名で新潟市秋葉区建設課に提出しました。

1. 小戸上組地内の道路及び歩道の拡幅要望書

〈場所〉新潟市秋葉区小戸上組八四一 付近

〈理由と要望〉

該当地点の道路は幅員2.5mで車1台が何とか通れる狭い道路だが、栗宮地区から国道460号に出るための最短コースになっており、乗用車や軽トラが頻繁に出入りする。またこの道路に続く歩道は幅員0.5mと大変狭いが国道460号信号機前まで進むのに必要な歩道になっている。

この道路及び歩道は小合東小学校児童の通学路にもなっており、交通安全上大変危険な場所になっており、該当道路及び歩道の早急なる拡幅をお願いしたい。

2. 道路「車道外側線」表示要望書

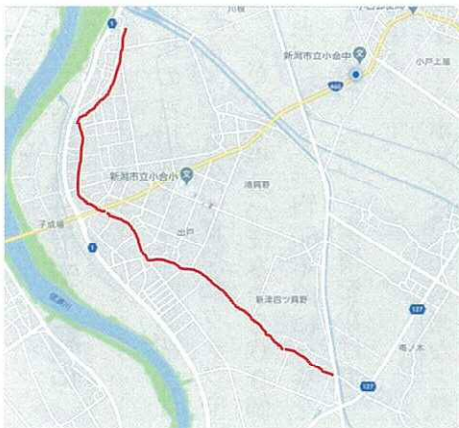
〈場所〉大秋排水機場前(浦興野高橋商店前)

〈理由と要望〉

地域の道路(左地図の朱記路線)で車道外側線標示が消えており、交通安全上大変危険です。交通安全を確保するため道路車道外側線標示を要望します。



歩道通行写真



## 新情報発信事業（小合SNS）に取り組んでいます！

〈 SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)とは?…インターネットを利用して、あらかじめ利用の登録をした人同士で交流できるサービスのことです 〉

昨年度行った小合地域全住民アンケートの結果、インターネットを利用している人が平均で約60%（40代で9割、50代でも8割）でした。

この結果から、これからの小合コミ協としての情報発信方法を紙ベースのみでなく、パソコンやスマホを使った方法を取り入れて行くことが必要だということが解りました。

今年は特に新型コロナウイルス感染防止のため、テレワークやステイホームなども叫ばれています。

小合コミ協も住民の皆様が必要な情報をタイムリーに受取り、また、住民の皆様からも新しい情報や意見を提供していただける新しい、時代に合った情報発信受信方法を導入していきたいと思っています。

具体的には6月からコミ協役員や自治会長、専門部長・副部長からなるプロジェクトチームを編成し、外部講師による研修会を行いながら、発信する情報とその発信方法を検討しています。

今後はラインやフェイスブックの使い方やホームページの作り方を学び、10月までには皆様に新情報発信方法をお知らせして、実施していきたいと考えています。

小合地域でも広く且つタイムリーな情報発信や受信ができるようになれば、地域連携

が進み、日々の安心・安全や災害発生時の自助・共助・公助なども可能となり、産業の活性化や地域力の向上が図られることにつながると思います。



研修会の様子

今年も「ミセンの花壇」に花の苗を植えました 6月7日(日)

例年地域の方々やコミセン利用団体など多くの方々にご協力を頂いています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は少人数で実施しました。



駐車場側花壇



国道460号脇花壇

「幸福の」

黄色いサボテン開花

川根の古川武さん宅の玄関先に高さ4メートルに育ったウチワサボテンが、今年はずぼみを200個以上つけました。約50年前に一葉を友人からもらって愛情をかけて育てたそうです。

ウチワサボテンは、中南米など熱い地域の植物。「新潟でここまで大きなウチワサボテンは見ない。冬に痛むと花が咲かないので、冬囲いなど大切にしているからだろう」と県立植物園も言っている。(6月13日新潟日報掲載)

小合の逸品の一つです。



写真は6月24日撮影  
(満開は、6月20日頃でした)